



CHAPTER 2

Cisco Unified Presence と統合 (WebDAV 経由) するための Microsoft Exchange Server 2003 および 2007 の設定



(注)

このモジュールでは、**WebDAV 経由**での Cisco Unified Presence と Microsoft Exchange Server 2003 および 2007 の統合について説明します。Exchange Web Services (EWS; Exchange Web サービス) 経由で Exchange Server 2007 または 2010 を統合する場合は、第 3 章「Cisco Unified Presence と統合 (EWS 経由) するための Microsoft Exchange Server 2007 および 2010 の設定」を参照してください。2 種類の Exchange 統合の概要については、第 1 章「Cisco Unified Presence と Microsoft Exchange の統合の計画」を参照してください。

- 「Microsoft Exchange 2003 設定チェックリスト (WebDAV)」 (P.2-1)
- 「Exchange 2003 アカウントの権限の確認」 (P.2-3)
- 「Microsoft Exchange 2007 設定チェックリスト (WebDAV)」 (P.2-3)
- 「Exchange 2007 アカウントの権限の確認」 (P.2-5)
- 「Exchange 2003/2007 仮想ディレクトリの認証の有効化」 (P.2-7)

Microsoft Exchange 2003 設定チェックリスト (WebDAV)

表 2-1 は、Microsoft Exchange 2003 サーバ上のメールボックスへのアクセスを設定するときに従う必要のあるチェックリストです。詳細については、Microsoft Server 2003 のマニュアル ([http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb123872\(EXCHG.65\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb123872(EXCHG.65).aspx)) を参照してください。

表 2-1 Microsoft Exchange 2003 コンポーネントの設定作業

作業	手順	重要な注意事項
サービス アカウントを作成し、「Exchange 表示専用管理者」セキュリティ グループのメンバとして追加する。	<ol style="list-style-type: none"> Exchange サーバの Active Directory ユーザーとコンピュータ (ADUC) で新しいサービス アカウントを作成します。 Exchange サーバの Active Directory ユーザーとコンピュータ (ADUC) で新しいセキュリティ グループを作成します。そのセキュリティ グループに「Exchange 表示専用管理者」という名前を付けます。 作成した Exchange 表示専用管理者グループを右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。[メンバー (Members)] タブで、このグループに作成したサービス アカウントを追加します。 Exchange サーバでシステム マネージャを開き、[管理グループ (Administrative Groups)] で [Exchange 表示専用管理者 (Exchange View Only Administrator)] グループまで移動します。 このグループを右クリックし、[制御の委任 (Delegate Control)] を選択して、Exchange 管理委任ウィザードを開始します。 [追加 (Add)] を選択し、作成したグループまで移動して選択します。 そのグループに Exchange 表示専用管理者の役割を割り当てます。 	Exchange サーバに管理者アカウントが既に設定されている場合があります。その場合でも、デフォルトの管理者設定では Exchange サーバ上の他のユーザ アカウントにサインインできないことがあるため、Exchange 統合用の管理者アカウントを別途作成することを推奨します。
ユーザ アカウントを作成し、そのユーザ アカウントに Exchange 表示専用管理者の権限を委任する。	<ol style="list-style-type: none"> Exchange サーバに新しいユーザ アカウントを作成します。 Exchange サーバでシステム マネージャを開き、[管理グループ (Administrative Groups)] で、作成したアカウントを追加する管理グループまで移動します。 このグループを右クリックし、[制御の委任 (Delegate Control)] を選択して、Exchange 管理委任ウィザードを開始します。 [追加 (Add)] を選択し、作成したユーザ アカウントまで移動して選択します。 そのアカウントに Exchange 表示専用管理者の役割を割り当てます。 	Exchange 2003 環境では、管理者 (Exchange 表示専用の権限を持つ) だけが Exchange サーバ上のユーザ アカウントにサインインして Exchange 設定を表示できるように、このユーザ アカウントに「Exchange 表示専用管理者」権限を委任する必要があります。 ユーザ アカウントは、一般の Exchange ユーザが使用する標準の Windows アカウントです。
ユーザ メールボックスに対する Receive As 権限を付与する。	<ol style="list-style-type: none"> Exchange サーバでシステム マネージャを開き、[管理グループ (Administrative Groups)] で、[最初の管理グループ (First Administrative Group)] > [サーバー (Servers)] > [最初のサーバー (First Server)] > [メールボックス ストア (Mailbox Store)] を選択します。 メールボックス ストアを右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。[セキュリティ (Security)] タブで、予定表の情報にアクセスする必要のあるアカウントの名前を入力します。 そのアカウントおよび関連するすべてのメールボックス ストアに Receive As 権限を割り当てます。 	Cisco Unified Presence では、Exchange サーバ上のユーザの予定表を調べるために追加の Receive As アカウント権限が必要です。この権限を上位レベル (メール ストレージグループなど) で割り当て、メール ストレージグループ内のすべてのメールボックスに対する読み取り専用アクセスを有効にすることを推奨します。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence は、Exchange サーバへの接続時にアカウントへのサイン インを可能にするためにのみ、そのアカウントに Receive As 権限を必要とします。このアカウントは、通常、メールを受信しないため、領域の割り当てについて考慮する必要はありません。
- Exchange サーバがダウンしていることを示すエラー メッセージが表示され、証明書が正しく設定されている場合は、Receive As アカウントが適切に設定されていません。上記の手順に従ってアカウントを再作成してください。

次の作業

「Exchange 2003 アカウントの権限の確認」(P.2-3)

Exchange 2003 アカウントの権限の確認

手順

-
- ステップ 1** Internet Explorer を使用して次の URL に接続します。
- <https://server/exchange/user@domain>
- server にはサーバ名、user にはユーザ名 (Receive As アカウント以外のユーザ)、domain には Exchange ドメインをそれぞれ入力します。
- ステップ 2** Receive As クレデンシャルを使用してサイン インします。このクレデンシャルによって OWA アカウントにアクセスできる場合は、権限が Exchange サーバまで正しく伝播されたことを意味します。
-

次の作業

「Microsoft Exchange と統合する場合の Cisco Unified Presence でのプレゼンス ゲートウェイの設定」(P.4-1)

トラブルシューティングのヒント

この手順は、Microsoft Exchange Server 2003 SP1 以降のリリースを対象とします。

Microsoft Exchange 2007 設定チェックリスト (WebDAV)

表 2-2 は、Microsoft Exchange 2007 サーバ上のメールボックスへのアクセスを設定するときに従う必要のあるチェックリストです。詳細については、Microsoft Server 2007 のマニュアル ([http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb124558\(EXCHG.80\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb124558(EXCHG.80).aspx)) を参照してください。

表 2-2 Microsoft Exchange 2007 コンポーネントの設定作業

作業	手順	重要な注意事項
Exchange 表示専用管理者アカウントにメールボックスを追加する。	<ol style="list-style-type: none"> Exchange 表示専用管理者の役割を委任されているアカウントを使用して Exchange 2007 サーバにサイン インします。 Exchange 2007 サーバ上で Exchange Management Console (EMC; Exchange 管理コンソール) を開きます。 コンソール ツリーで [受信者の構成 (Recipient Configuration)] を選択します。 [メールボックスの新規作成 (New Mailbox)] を選択し、[メールボックスの新規作成 (New Mailbox)] ウィザードを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> [ユーザー ログオン名 (ユーザー プリンシパル名) (User Logon Name (User Principal Name))] には、ユーザアカウントが属する Microsoft ドメインの名前に続けてユーザがメールボックスにサイン インするために必要な名前を入力します。 <p>例: <code>msoft-domain-name\username</code></p> 	指定のストレージにメールボックスを持たないアカウントは機能せず、いずれかの段階でメールボックスを削除した場合、そのアカウントは機能を停止します。
アカウントに Exchange 表示専用管理者の権限を委任する。	<p>Exchange Management Console (EMC; Exchange 管理コンソール) を使用する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> Exchange 2007 サーバ上で EMC を開きます。 コンソール ツリーで [Organization Configuration] を右クリックします。 [Exchange 管理者の追加 (Add Exchange Administrator)] を選択し、作成したアカウントまで移動して選択します。 そのアカウントに Exchange 表示専用管理者の役割を割り当てます。 <p>Exchange Management Shell (EMS; Exchange 管理シェル) を使用する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> コマンドライン入力を行うために EMS を開きます。 Run 行または EMS のコマンドプロンプトから、関連する引数を指定して Add-Exchange コマンドを実行します。 <p>このコマンドの構文と例を次に示します。</p> <p>構文</p> <pre>Add-ExchangeAdministrator -Role "role" -Identity "identity"</pre> <p>例</p> <pre>Add-ExchangeAdministrator -Role ViewOnlyAdmin -Identity CUPSAdmin</pre>	<ul style="list-style-type: none"> Exchange 2007 環境では、管理者 (Exchange 表示専用の権限を持つ) だけが Exchange サーバ上のユーザアカウントにサイン インして Exchange 設定を表示できるように、このユーザアカウントに「Exchange 表示専用管理者」権限を委任する必要があります。 ユーザアカウントは、一般の Exchange ユーザが使用する標準の Windows アカウントです。

作業	手順	重要な注意事項
ユーザ メールボックス に対する Receive As 権限を付与する。	<p>Exchange Management Shell (EMS; Exchange 管理シェル) を使用する場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマンドライン入力を行うために EMS を開きます。 2. EMS で次のように Add-ADPermission コマンドを実行します。 <p>構文</p> <pre>Add-ADPermission -Identity "Mailbox Store" -User "Trusted User" -ExtendedRights Receive-As</pre> <p>例</p> <pre>Add-ADPermission -Identity "First Storage Group" -User CUPSAdmin -ExtendedRights Receive-As</pre>	この手順を実行するために、Exchange Management Console (EMC; Exchange 管理コンソール) を使用することはできません。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence は、Exchange サーバへの接続時にアカウントへのサイン インを可能にするためにのみ、そのアカウントに Receive As 権限を必要とします。このアカウントは、通常、メールを受信しないため、領域の割り当てについて考慮する必要はありません。
- Exchange サーバがダウンしていることを示すエラー メッセージが表示され、証明書が正しく設定されている場合は、Receive As アカウントが適切に設定されていません。上記の手順に従ってアカウントを再作成してください。

次の作業

[「Exchange 2007 アカウントの権限の確認」 \(P.2-5\)](#)

Exchange 2007 アカウントの権限の確認

Exchange 2007 アカウントに権限を割り当てた後で、その権限がメールボックス レベルまで伝播され、エンドユーザのメールボックスにアクセスできることを確認する必要があります。Exchange 2007 では、権限がメールボックスに伝播されるまでに時間を要します。

はじめる前に

- Exchange アカウントに適切な役割と Receive-As 権限を委任してください。「Microsoft Exchange 2007 設定チェックリスト」を参照してください。
- 次の手順の例では、Exchange アカウントが「cupsadmin」であり、メール ストレージ グループの名前が「First Storage Group」であることを前提とします。

手順

ステップ 1 コマンドライン入力を行うために Exchange Management Shell (EMS; Exchange 管理シェル) を開きます。

ステップ 2 次のように Exchange アカウントが「Exchange 表示専用管理者」グループのメンバーであることを確認します。

- a.** EMS で次のコマンドを実行します。

```
([ADSI]"LDAP://CN=CUPS Admin,CN=Users,DC=r7,DC=com").memberof
```



(注) 「CN=CUPS Admin,CN=Users,DC=r7,DC=com」は、Exchange アカウントの Distinguished Name (DN; 識別名) です。DN を確認するには、**adsiedit.msc** を使用します。また、必要な場合は Active Directory 管理者に DN を問い合わせてください。

- b. 次のように、Exchange アカウントが「Exchange 表示専用管理者」グループのメンバであることがコマンド出力に示されていることを確認します。

例：コマンド出力

CN=Exchange View-Only Administrators,	OU=Microsoft Exchange Security Groups,	DC=r7,	DC=com
---------------------------------------	----------------------------------------	--------	--------

ステップ 3 次のように、Exchange アカウントにメール ストレージ グループに対する「Receive-As」権限があることを確認します。

- a. EMS で次のコマンドを実行します。

```
Get-ADPermission "First Storage Group" -user cupsadmin | Format-Table -AutoSize
```



(注) 「First Storage Group」は、メール ストレージ グループの名前です。「cupsadmin」は、Exchange アカウントです。

- b. 次のように、Exchange アカウントがメール ストレージ グループに対する「Receive-As」権限を持っていることがコマンド出力に示されていることを確認します。

例：コマンド出力

Identity	User	Deny	Inherited	Rights
-----	-----	---	-----	-----
HTLUO-MAIL\First Storage Group	R7\cupsadmin	False	False	Receive-As

ステップ 4 次のように、Exchange アカウントがエンドユーザのメールボックスに対する権限を持っていることを確認します。

- a. EMS で次のコマンドを実行します。

```
Get-MailboxPermission jdoe -user cupsadmin | Format-Table -autosize
```



(注) 「jdoe」は、エンドユーザのメールボックスです。「cupsadmin」は、Exchange アカウントです。

- b. 次のように、Exchange アカウントが jdoe のメールボックスに対する FullAccess 権限を持っていることがコマンド出力に示されていることを確認します。

例：コマンド出力

Identity	User	AccessRights	IsInherited	Deny
-----	-----	-----	-----	---
r7.com/Dallas/John Doe	R7\cupsadmin	{FullAccess}	True	False

トラブルシューティングのヒント

ユーザ メールボックスに対するフル アクセス権限は、最上位の権限（この例では「First Storage Group」）から継承されます。コマンド（ステップ 4 で実行したコマンド以外）が出力を返さない場合は、権限がメールボックスまで伝播されていないことを意味します。Exchange アカウントがエンドユーザのメールボックスに対して FullAccess 権限を持つまで、先に進まないでください。

次の作業

「Microsoft Exchange と統合する場合の Cisco Unified Presence でのプレゼンス ゲートウェイの設定」(P.4-1)

Exchange 2003/2007 仮想ディレクトリの認証の有効化

Microsoft Office Outlook Web アクセスが正しく動作するためには、Exchange 仮想ディレクトリ (/exchange または /exchweb) の基本認証を有効にする必要があります。/exchange ディレクトリは、OWA および WebDAV へのメールボックス アクセス要求を処理します。/exchweb ディレクトリには、OWA および WebDAV が使用するリソース ファイルが含まれています。

次の手順は、Windows Server 2003 を実行する Exchange 2003 および Exchange 2007 サーバでの WebDAV 統合を対象とします。

手順

-
- ステップ 1 [Administrative Tools] から [Internet Information Services] を開き、サーバを選択します。
 - ステップ 2 [Web Sites] を選択します。
 - ステップ 3 [Default Web Site] を選択します。
 - ステップ 4 [/exchange] または [/exchweb] を右クリックし、[Properties] を選択します。
 - ステップ 5 [Directory Security] タブを選択します。
 - ステップ 6 [Authentication and Access Control] で、[Edit] を選択します。
 - ステップ 7 [Authentication] で [Basic Authentication] チェックボックスと [Integrated Windows] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
-

関連事項

- [http://technet.microsoft.com/en-us/library/aa998849\(EXCHG.80\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/aa998849(EXCHG.80).aspx)
- 既知の問題：「Exchange 2007 から「HTTP 503 サービス利用不可 (HTTP 503 Service Unavailable)」エラーが返され、予定表の統合が失敗する」(P.6-9) を参照

